

アジア・マーケットレビュー

2008 10/15号

Vol.20/No.18

ASIA

Market Review

グローバルアジアのビジネス・リスク分析



小学校近くの駄菓子屋は子供たちの人気の的。(タイ・バンコク)

■ 産業アナライズ

宇部興産がタイでウレタン原料の新工場を建設
カプロラクタムでPTTグループと資本提携も

■ ビジネスレポート

フィリピン最大財閥アヤラが新 ICT パーク完成
UP・アヤラランド・テクノハブが今月オープン

■ 政界人脈

《タイ》ソムチャイ新政権：全閣僚データ

パスワードを探せ！ 購読者だけがアクセスできるウェブサイトのお知らせが本誌にあります

「アジアのビジネスに欠かせないニュース満載の Web サイト」

→ <http://amr-net.jp>

フィリピン最大財閥アヤラが新ICTパーク完成 UP・アヤラランド・テクノハブが今月オープン

1834年フィリピンで創立、フィリピンで最大の企業グループであるスペイン系財閥のアヤラでは、これまでマニラ首都圏の中心ビジネス街であるマカティ市の開発を始めとする都市や工業団地の開発、通信(携帯電話のグローブ・テレコム)などフィリピンの多くの産業分野でパイオニア的な活動を展開、ことごとく成功させてきた。このアヤラ・グループが近年、ICT(情報通信技術)分野にグループの総力を挙げて取り組み始めた。その今後の活動を支えるインフラとして『UP・アヤラランド・テクノハブ』が今月オープンする。マニラ首都圏ケソン市にあるフィリピン国立大学(UP)と協力して、同キャンパス隣接地に第1期建設がほぼ終わったこのICTパークを見学した。



フェルナンド・ゾベル・デ・アヤラ社長

BPOやソフトウェアの オフショア開発に全力投球

昨年10月、アヤラ・グループでは、初の試みとしてグループ内の「ICT(情報通信技術)サミット」をマニラで開催、今年8月末には2日間にわたり、より大規模な第2回ICTサミットをマニラ首都圏マンダラヨンのエドサ・シャングリラ・ホテルで開催した。そこにはマイクロソフト、HP、DELL、オラクル、シスコ、IBMなど、アヤラ・グループ以外の関係者を含め約500人が参加した。多くの出展ブースでそれら各社は得意の技術を売り込んでいたが、モバイル環境、サプライチェーンマネジメントといったテーマで各社による数多くの国際セミナーも開かれた。

同サミットで、フェルナンド・ゾベル・デ・アヤラ(Fernando Zobel de Ayala)社長(COO)は「ICTは今後さ

らにグローバル、ボーダレス化するビジネスで生産性やサービスを高めるために不可欠なもの。各企業だけでなくICTは国の競争力を高めることにつながる」と力説した。数年前から始めたBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)で日本法人を設立したアヤラ・システムズ・テクノロジーズ社(ASTI)のアーウィン・ロクシン(Erwin P. Locsin)社長も、「アヤラ・グループ内に異業種企業も多いが、各社で共有できるICTは多い。たとえばEMS(電子部品機器受託製造サービス)でアヤラが1980年に設立したインテグレートッド・マイクロエレクトロニクス社(IMI)は、日本にも進出しているが、当社と今後の新たなビジネス構築に向けた情報交換も行っている」と説明した。

アヤラ・グループでは、それまでノウハウがなかったBPO部門強化のため近年、M&A(企業の合併・買収)で、米国のニューヨークやロス、英国のロンドン、インドのムンバイやニューデリーに拠点があり投資銀行や法律事務所のアウトソーシング(業務の外部委託)を行うインテグレオン(INTEGREON)社を買収したのを始め、デジタル・グラフィックスやデジタル・デザインのアフィニティ・エクスプレス(AFFINITY EXPRESS)社を100%買収した。インテグレオンはインドのデリーとムンバイに800人、フィリピンで200人の人材を抱えており、これらと連携してICT関連ビジネスを拡大させていく方針。一方アフィニティでは3件の新合併事業も生

まれている。

『UP・アヤラランド・テクノハブ』が今月、正式オープン

フィリピン国立大学(UP)とアヤラ・グループの合弁事業として、UPが保有している広大な敷地に建設を進めていた『UP・アヤラランド・テクノハブ』が10月中に正式にオープンする。60ヘクタールの内、第1期として37.5ヘクタールの開発を進めているもので、すでに4ヘクタールの湖を囲む形で6棟のビルが完成した。1棟の床面積は約1万平方メートルでそれぞれ4階建てのビル。「2009年中に残る4棟を完成させる」と現地で説明された。入口にあるインキュベーション・エリアは、30平方メートルから50平方メートルほどのスペースに区切られているが、すでに半分ほどは契約済み。公共スペースには「東京東京」という名のフィリピンの日本食チェーンなどもオープンする。

UP・アヤラランド・テクノハブ



UP・アヤラランド・テクノハブ

プ。の賃貸料は月間、1平方メートル680ペソ(1ペソ約2.5円)。同じマニラ首都圏のマカティにある高層オフィスタワーでは1,200ペソほどするからほぼその半額、日本の東京などのオフィス価格の4分の1ほどである。更に、この「UP・アヤラランド・テクノハブ」は、PEZA(フィリピン経済区)の認定地域にすでに指定され、入居企業は所得税の減免などの恩典が受けられる。今月(10月)中にアロヨ大統領を迎えオープニング式典を行うことになっている。

フィリピンでは停電はほぼ無くなったものの、ハイテク施設が停電すると、コンピュータなどに影響が大きい。そこで「UP・アヤラランド・テクノハブ」では、ディーゼルの自家発電設備も導入、電力会社(メラルコ)からの送電が止まった場合に備えているが、常時2日分のディーゼル燃料を蓄えて万全を期しているという。

「UP・アヤラランド・テクノハブ」には、すでに香港上海銀行(HSBC)などの英国系金融グループやIBMがバックオフィスとして入居している他、カナダに本拠を置く世界第5位の保険会社であるマニライフがBPOを始めている。アヤラ・グループではすでに2000年11月からUPと同キャンパス内で情報通信技術(ICT)での産学協同事業「UP・アヤラ・テクノロジー・インキュベータ」で協力関係にある。

世界との提携を推進する「アヤラ・システムズ・テクノロジー社」

アヤラ・システムズ・テクノロジー社(ASTI)によると、同社はこのほどシンガポールの政府系通信会社のシンガポールテレコム(シンテル)の関連会社と紙データの電子帳票化・データ運用でタイアップした。先ず、銀行、保険業務をテスト的に行い、将来的には国家的規模のビジネスに拡大させたい方針。

ASTIではまた、この4月からスウェーデンのIT企業と提携したばかりだが、このスウェーデン企業の紹介による新ビジネスが相次ぎ決っている。同国のGIS(ジオグラフィック・インフォメーション・システムズ)というソフト開発企業は、アヤラが開発したマニラ郊外のアラバンに当初5人を派遣して協力してソフト開発を始め

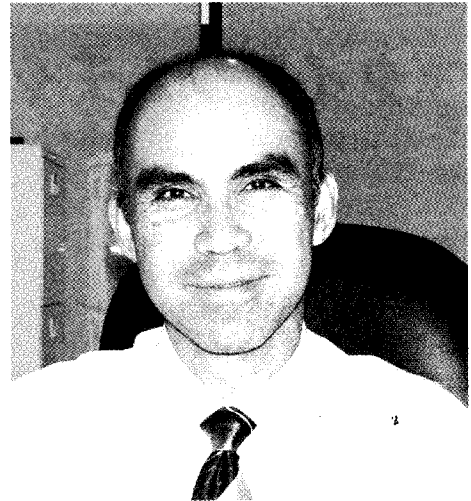
る。また、北欧の4割もの旅行市場を押さえる旅行代理店とウェブでの協力事業をスタート、さらにはスウェーデンの風力発電機メーカーとの契約も決った。

一方、オフショア開発、BPOで世界に遅れを取っている日本企業であるが、ここに来てようやく動きだしている。現在、有力日本企業と中長期的提携の話が進んでおり、フィリピン人の英語力を生かしてエンジニアの教育を行う話も進んでいるという注目すべき動きがでてきている。

「UP・アヤラランド・テクノハブ」の入り口の右手に完成した「第1ビル」は1階2,500平方メートルで4階建て計1万平方メートルの「インキュベーション(事業創成)施設」。ASTIは、ここを使って、初期投資がきわめて小さく抑えられるなどコストが軽減できる「インキュベーション事業」を日系企業にも広げていく方針。まだ日系の契約がない点についてASTIのアーウィン・ロクシン社長は、「日本のITマーケットは巨大だと認識している。今後、最初の数社が決まればあとは続いて来る」と見ている。

2006年末にASTIは日本法人であるASJ(=Ayala Systems Japan, アスジェ、〒261-7121 千葉県美浜区中瀬2-6、WBGマリブイースト21階 電話043-301-5355、<http://www.asj.ayalasytems.com/>)を設立している。ASJの神田(こうだ)茂社長は、「インキュベーションのビジネスでは、日本企業の海外進出のリスクを最小限にすることがテーマ。人材と会社の管理はアヤラ側でお引き受けし、ASJとASTI内に顧客の各社ごとの事業部を設置、専任社員を採用して、独立運営します。従って顧客企業は最小人数の技術者を日本から派遣するだけです。フィリピンは年40万の大卒が居り、内4万人がIT関係の卒業生。第2外国語である英語が得意な上、柔軟性、適応力が高く、チームワークの点で優れ、まちがいなく親目的で優秀なフィリピン人材を責任を持って集められます」という。

現在、ASTIから日本の大手銀行、大手のSIER(システム・インテグレーター)やメーカーに、8人ほどのブリッジ・エンジニアを送っており、フィリピンにはその10倍の日本チームがいる。更に、日本企業のエンジニアをフィリピンに受け入れ、ASTIで



ASTIのアーウィン・ロクシン社長

英語と技術研修をしてもらっている。ASJの神田社長は、「弊社はオープン・ソース・ソフト(OSS=公開されているソースコードを使う)での開発を得意としている。Red HatやMySQLのパートナーとして、大規模開発、サポート業務も実施しており、MySQLでは日本の最大のユーザーの開発・サポートに協力している。SIERとも商談中。我々のような考え方の企業はまだなく、多国籍企業でもあり、日本企業との提携も多いアヤラ・グループの総力を挙げて顧客をバックアップしていきたい。また、日本国内にとどまらず、東南アジアで活躍する日系企業を始め、グローバルで活躍する人材が必要な企業に対するサポート、合弁企業の設立にも関与していきたい」という。

ASJの佐藤忠彰ダイレクターは富士通時代に欧州各地に駐在し活躍した人材。佐藤氏は、「ソフト開発の分野では、海外のリソースを如何にして上手く活用できるかが成功の鍵になっている。日本国内でのIT人材が不足化する一方で、ソフト開発の需要は年々膨らんでおり、そのギャップが大きくなっている実情にある」と指摘し、「世界のIT産業が英語をツールにしてビジネスを展開することが定着した現在、日本だけが日本語に固執して行けず、さらに遅れてしまう」と危惧している。一方「フィリピンのIT技術者は欧米の新技术について言葉の壁なく、英語でどんどん吸収している。このため、フィリピンのIT技術者は日本の弱さを埋めることができる」と佐藤氏は見ている。

(アジア・ジャーナリスト 松田 健)